伊達家の開拓の歴史を彩る「とうべつ伊達御膳」

現在、当別町では観光協会と連携し、「武士が開拓した町」という伊達家の歴史資源を活用した 新たな観光コンテンツの造成に力を入れており、令和 10 年 4 月の北海道医療大学の町外移転に伴う経済損失に歯止めをかけることや本町地区に人を呼び込むことを目的に、「とうべつ伊達御膳」を町内飲食店ご協力のもと開発しました。

今月は、「とうべつ伊達御膳」について紹介します。

■問合せ　観光振興課観光振興係（☎ 27 － 5381）

とうべつ伊達御膳

宮城県大崎市・仙台市・北海道当別町に保管されている数々の資料文献の中で、仙台藩岩出山時代や当別開拓時に食されていたものを現代風に食べやすくアレンジし、伊達家の味覚を味わうことができる御膳です。

メニューの１つ１つに伊達家の歴史や開拓当時の食文化が色濃く表現されています。

販売店：田西会館
住所：当別町弥生 1091
電話：0133-23-4050
価格：5,500 円（税込）
※要予約（14 日前まで）

1 子籠（こごも）り鮭

腹に筋子を入れたまま塩漬けにした鮭。政宗公の正月料理にも登場し、200 年以上受け継がれてきた逸品。

2 ワカサギの天婦羅

邦直公の当別での日記に「干つか（ワカサギの類）」として登場。仙台藩岩出山の川魚文化を背景に親しまれた。

3 牛鍋

仙台藩料理書に牛の本汁（味噌汁）が記され、仙台藩岩出山でも親しまれた牛肉。牛肉料理として日本最古のものとされている。

4 しそ巻き

仙台味噌にくるみなどを練り合わせ、青しその葉で巻いて油で揚げたもの。北欧の風 道の駅とうべつ等でも販売中。

5 かて飯（栗ご飯）

野菜や雑穀を混ぜて、ご飯のかさを増した「かて飯」は仙台藩の日常食。この御膳では栗ご飯で提供。

6 ずんだ餅

政宗公時代から続く仙台藩の代表的な郷土食。
現在も仙台土産として大人気。

当別開拓の歴史

1868年の戊辰戦争で幕府軍側だったことにより、新政府から厳しい処分を受けた岩出山領主・伊達邦直（政宗の子孫）公は、家臣を養うことが不可能となりました。邦直公は、私財を投じた蝦夷地の開拓を決断し、1871年に移住団180名と共に出発。当初の入植地は農耕に適さない砂地での開拓であり苦労しながらも、肥沃な地「トウベツ」を見出しました。

邦直公は、この地の気候に合う西洋農法を取り入れ、若者を東京官園に送り、この農法を学ばせます。この革新性と主従一体の組織的な取り組みにより、1881年、当別は「開拓模範村」に選定されています。

想定外の苦難続きの中でも、生きるために戦い抜いた邦直公は1891年に逝去し、現在は彼を祀る当別神社が町の風景を見守っています。

とうべつ伊達御膳弁当

「とうべつ伊達御膳」をもっと手軽に味わっていただけるよう、「とうべつ伊達御膳弁当」も併せて開発。メニューは御膳から厳選された7品で構成されています。さらに、オリジナル風呂敷も特典でついており、伊達家の味覚体験を持ち帰ることができます。

販売店：小林商店
住所：当別町園生55
電話：0133-23-2040
価格：2,200円～3,980円（税込）
※写真は3,980円の商品イメージです。
※季節により一部食材が予告なく変更になります。
※要予約（10日前まで）

とうべつ伊達パフェ

伊達藩の食文化やシンボルなどをスイーツにした「とうべつ伊達パフェ」も誕生。伊達政宗公が送ったヨーロッパ派遣団が、日本で初めてチョコレートを食べたのではないかという一説にちなみ、カカオクッキーを使用した、伊達家のテイスト盛り沢山のメニューです。

販売店：Café & Kitchen Offshore
住所：当別町弥生51-26
電話：0133-27-5414
価格：単品680円、ドリンクセット900円～（税込）
※1日限定10食。
※写真はイメージです。

7 宇和島みかん・西洋ぶどう

伊達家同士の交流を表す宇和島みかんと、開拓模範村時代に開拓使から献上された西洋ぶどう。

8 はっと汁

米の代用として小麦粉を水で練った生地「はっと」をしょうゆ出汁に入れた東北地方の郷土食。

9 柿なます

政宗公の正月祝儀料理「三汁十六菜」にも並んだ伝統的なもの。岩出山でも、大根・人参に干し柿を加える柿なますなどが正月の定番だった。

10 つと納豆のおくらと山芋和え

仙台藩主の御膳にも並んでいた伝統食である「つと納豆」は、岩出山では昭和頃まで自家製だった。

11 凍み豆腐（宮城の煮物）

日常食・正月料理に不可欠となっていた凍み豆腐は携帯性・保存性に優れており、当別開拓を支えた食料だったに違いない。

12 蕎麦

冷涼な気候での栽培に適した蕎麦は、政宗公時代から仙台藩の名産品。岩出山では冬の保存食で、開拓の苦難を乗り切る糧となった。